

授業改善の視点(算数・数学)

もくじ

- ・授業改善の視点(算数・数学) … 1
- ・PC問題を解いてみよう … 2
- ・キラ☆と輝く子どもの先生の笑顔… 2
- ・不登校への対応の手引きを活用して… 3
- ・合理的配慮実践事例集を活用して … 3
- ・外国籍等児童生徒指導研修会 … 4
- ・地域ぐるみの人権教育研修会 … 5
- ・地域とつながるPTA指導者研修会… 6
- ・ひろがる信州型コミュニティースクール… 7
- ・総務課からのお知らせ … 8

「わかった!」「ああ、そうか」…

そのときの見方・考え方に言葉を与えよう

中教審答申では、「学びの『深まり』の鍵」は、「各教科等の特質に応じた『見方・考え方』である」としています。その実現に向けた実践は、既に私たちの身近で行われており、ポイントも見えてきています。

教師：30 円のアメと 40 円のガムとラムネを買ったら全部で 90 円でした。

児童：わかった！ラムネは 20 円!!

わかった!



教師：そのわけを説明できる？

児童：えっと…、絵をかく。図でもできる。

教師：では、ラムネが 20 円だということを、図や絵や言葉で説明することを学習課題にしよう。

Point 1 授業の背骨を通す

・評価規準と学習課題がリンクしているか確かめよう。

評価規準：線分図をかき、ラムネが 20 円であり、引き算で求めることを説明できる。

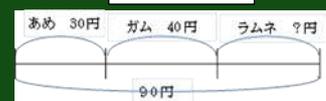
Point 2 「ああ、そうか」そこにある見方をことばにする

・未完成な操作・図や絵でもいい。表現を引き出そう。

A さんの図



B さんの図



A さんのテープ図のいいところは、

- ・飴とガムとラムネを買ったことが分かる。
- ・上の 3 つの合計と 90 円は同じだと見ると、B さんみたいに、一本にして線分図をかいていいということがわかれるところ。
- ・全体が 90 円だから、ラムネの値段を出すときには、90 円から飴とガムを合わせた金額を引くんだ。

ああ、
そうか

A さんの図と B さんの図からラムネは 90 円の一部だと見ることがカギだとわかりました。だから $90 - (30 + 40)$ の引き算なんだ!!

Point 3 評価規準の根拠となる見方を言葉で共有する

- ・引き出した表現をもとに「見方」を表す言葉を探ろう。
- ・「見方」を子どもの活動やことばで具体的に想定しておこう。

季節の花だより



「ラベンダー」
花言葉「清潔・期待」 2017/7

平成 29 年度重点目標・キーワード
生涯学習課
“学びをつなげて 人づくり 地域づくり”
学校教育課
“語らい つなぐ”

1 学期が終わり、子どもたちの声が少し遠ざかった校舎で、夏休みの研修が進められている頃でしょうか。子どもたちの笑顔のために、ともに語らいましょう。事務所だよりについても、ご意見・ご感想・ご希望の記事等をお寄せください。(メール hokushin-s@pref.nagano.lg.jp まで)

PC問題を解いてみよう!

読んだ内容から課題を設定する



何について考えたらいいのかさっぱり…。

ポイント!

- ★調べたいことに線を引いたり、書き出したりする。
- ★疑問に思ったことを出し合い、整理する。



【雑誌の記事】を読んで、気になったところに線を引いてみたよ。

アサギマダラ（蝶）は、毒を含む植物を好んで食べているから、体に毒を帯びると書いてある。



だから敵に襲われづらいんだね。でも、他にも理由はあるのかな？ 毒を食べるメリットは何だろう。

そうだ！ 私、なぜアサギマダラが毒を含むものを好んで食べるのか詳しく調べてみるわ！



話題をしぼってから話し合ったら、だんだん疑問点がはっきりしてきたわ！

2

宮下さんは、次の【雑誌の記事】を読んでアサギマダラに興味をもち、調べています。これを読んで、あとの問いに答えなさい。

【雑誌の記事】「子供の科学」（誠文堂新光社）による

二 宮下さんは、アサギマダラについて疑問に思ったことを、学校図書館で調べることになりました。あなたなら、自分が疑問に思ったことを、学校図書館でどのように調べますか。次のア、イについて、それぞれの指示にしたがって書きなさい。

ア 【雑誌の記事】を読んで、アサギマダラについてあなたが疑問に思ったことを、「なぜ」、「どのよう（に）」、「どのくらい」という言葉のいずれかを使って、二十文字以上、四十文字以内で書きなさい。

【H29 P 調査問題 中学校国語2 (一部抜粋)】

キラッ☆と輝く 子どもの先生の笑顔 vol.3

学校訪問で出会った「笑顔」をコラム風に紹介します。

C 小学校六年生 理科
問いを変容させながら学びを深めていく子どもたち
「本当にそうかな」とやっぱりそうなんだで見方を深めていく子どもたちと、こだわりを持ってまで検証の場を保障したH先生

「みんなは、火の消え方に注目して、予想をしているのだね」担任のH先生が「空気の入った集気瓶の中で燃やしていったろうそくの火が消えたのはなぜか」について考え合っている子どもたちに声をかけた。理由を「二酸化炭素が増えたから」と考えたFさんの発言と、「酸素がなくなったから」と考えたGさんの発言のどちらが正しいかをめぐって考えを述べていたのだが、H先生のこの声を聞いて発言の自身が変容する。◆子どもは既習事項を想起しながら「この前、二酸化炭素が入った集気瓶の中に火のついたろうそくを入れた時には、すぐに消えたよね」「そう、一瞬で消えた」「だけど今回は火がだんだん小さくなっていった、ゆっくりと消えた」と目の前の事象を改めて捉え直していく。そして「燃えている時に、酸素が使われて減っていくから、ゆっくりと消えていった

のだと思う」「僕も集気瓶の中は二酸化炭素が増えているとは思っけど、火が消えたのは、酸素がなくなったからだと思う」と酸素と二酸化炭素の割合の変化が「ゆっくり消える」「だんだん小さくなる」という火の消え方に関わるのではないかと問題を捉え直したのだ。◆どうして火の消え方にこれだけこだわりを持てたのか。それは、「火の消え方が違う」と友の発言を聞いて終わりではなく、「本当にそうかな」と繰り返し検証し、「やっぱりそうなんだ」と納得して理解する場が保障されていたからではないか。◆「火が消えた後の集気瓶の中がどうなっているか確かめたい」と課題を据えて、気体検知管で集気瓶内の二酸化炭素の割合の変化を確かめた。実験結果を目の前にして「やっぱり、二酸化炭素は増えた」という声とともに「でも、増え方がおかしいよ、まだ酸素がけっこうある」と分析を始めた。「酸素が残っているのに、火が消えたということなのかな」ということは、どんな割合になると消えるのかな」とさらに問いを進めていく。◆「今度は集気瓶の中の酸素はどうなったか確かめたい」クラス全体に新たな課題が生まれた瞬間をH先生は笑顔で見つめていた。

【このエピソードからどんなことを感じましたか?】



【このエピソードから大事に考えたいこと】

- 繰り返し確かめる場を保障したことで、子どもの見方が深まる。
- 対話によって考え方が深まることで、子どもの学習に対する必要感が高まる。

不登校への対応の手引きを活用して

子どもたちの社会的な自立を支援するためのガイドブック

～ 『不登校への支援について考える』の紹介 ～

不登校という状況が継続し、結果として十分な支援が受けられない状態が続くことは、自己有用感の低下を招くなど本人の進路や社会的自立のために望ましいことではありません。県教育委員会では、不登校（長期欠席）を本県の重要な課題と捉え、学校が組織として子どもたちの社会的な自立を支援するための「ガイドブック」を作成しました。このガイドブックは『不登校への対応の手引き』に第1章の「自校における不登校支援の課題を整理する」を加え改訂したものです。学校・教職員等が自校の課題を共有し、支援を進めるにあたっての基本的な考え方を確認した上で、子どもの状況に応じた効果的な支援が進められることが大切です。手引きの効果的な活用事例を紹介した資料『活用事例のサイクル化』と合わせて、すべての子どもの社会的自立を支援するために、積極的にご活用ください。



【ダウンロード】

県教育委員会ホームページ > 生徒指導 > 『不登校への対応の手引き（改訂版）』、『活用事例のサイクル化』
<http://www.pref.nagano.lg.jp/kyoiku/kyoiku/shido/index.html>

合理的配慮実践事例集を活用して

「合理的配慮実践事例集」
を活用してみませんか

通常の学級における特別支援教育の充実を！

学級が落ち着かなくて…
私の学級のAさんも、席を離れたり、教室から飛び出したりしてしまう。どうしたらいいのだろう？



B先生

事例1 小学校 通常の学級（シロウさんの事例）

学級全体が落ち着かず、教室から飛び出すことがあった時期

- ・読み聞かせで、聞く姿勢をつくった。
- ・「みんなの声が聞こえる所にいればよし」として、規制する頻度を減らした。

教室の活動に意識が向くようになった時期
興味を持った学習や活動に参加するようになった時期

- ・競争しない安心できる遊びを行って、一人一人が心を解放できるようにした。
- ・「好きなことや興味にあること」は特別な配慮はせず、みんなと同じことができるという満足感をもてるようにした。

個の活動には参加できるようになってきた時期
集団への気持ちができるようになった時期

- ・宿題の量に応じて賞状を渡し、達成できたことをみんなで喜んだ。
- ・気心の知れた友だちとのペア学習をする機会を増やした。

シロウさんは友だちとのかかわりを少しずつ広げて、ともに学ぶ楽しさやよさを実感することができたのです。私の学級のAさんも学級の雰囲気の影響されているのかもしれませんが、安心して学べる学級づくり、授業づくりから見直してみたいです。



B先生

合理的配慮
実践事例集



平成29年3月
長野県教育委員会

「合理的配慮実践事例集」には、9つの事例が紹介されています。特別な配慮が必要な子どもが、適切な配慮によって、集団の中でともに学び育っていった様子が具体的に示されています。

長野県 合理的配慮実践事例集

検索

外国籍等児童生徒指導研修会

「主体的・対話的で深い学び」で 日本語も学ぼう

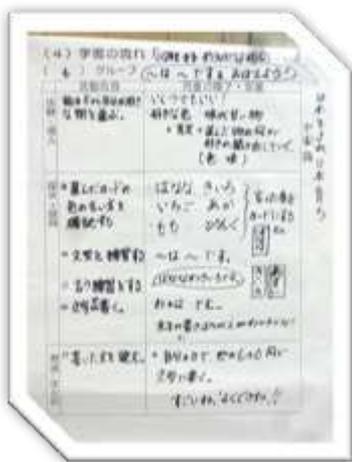
第1回外国籍等児童生徒指導研修会 兼 第1回長野市日本語指導連絡協議会

5月18日(木) 長野合庁で実施

《子どもが語りたくなる！授業づくり》

JSLカリキュラム演習 (講師 徳間小学校 有賀光世 先生)

Aグループ【中学1年生のお子さんと仮定】



「行事のキャンプの食材を買いに行く場面を考えるのはどうでしょう。」(B先生)

「スーパーのチラシをつかって、そこから選べばよさそうですね。」(C先生)

「チラシから予算も考えられそうですね。」(D先生)

「自然と会話になっていきますね…」(E先生)



日本語での日常会話はできても、教科学習に困難を感じている子どもたちにとっては、筆記ではなく、得意な会話力を使って潜在的な力を引き出します。このことが、指導者も子どもたちに向き合う大切な機会になります。



【JSLカリキュラム】は…

日本語が苦手な子どもたちが学校での学びに日本語を使って参加できるように支援することを目指しています。文法や文型を学ぶいわゆる「語学」ではなく、仲間と話したり、自分の考えを発表したりという活動ができるようになることを目的としています。

情報提供では、長野県国際化協会の塩澤正男先生より、生活言語を活かしながら文を書く力を高める事例の発表やDLA(対話型アセスメント)についてのDVDを紹介していただきました。



地域ぐるみの人権教育研修会

7月14日(金)、千曲市更埴文化会館にて「平成29年度北信地区人権教育研修会」を開催しました。



～オープニングセレモニー～

今年も、開会に先立って、満天の星・いなりやま共同作業所のみなさんによる歌の発表がありました。参加者の方から「生き生きとした歌声でした。とてもさわやかで明るい気持ちで研修がスタートできました。」

「自然と手拍子をして、いっしょに歌っていました」など、とても好評のセレモニーでした。

講演会「『魂を揺さぶるコミュニケーション術』ペップトーク～やる気を引き出す魔法の言葉～」 日本ペップトーク普及協会 代表理事 岩崎 由純さん

ペップトークとは、応援したい人を勇気づける前向きな言葉かけです。岩崎由純さんは立命館大学アメリカンフットボール部の試合前の監督の言葉かけの映像を例に、ペップトークの極意について説明してくださいました。最も大切なことは、「**相手を受け入れ、信じる**こと」です。言葉かけのポイントは5つ。「**短い**」「**分かりやすい**」「**肯定的な言葉を使う**」「**魂を揺さぶる**」「**人をその気にさせる**」です。ペップ



トークの真逆のやる気をなくす言葉かけを「**プペトーク**」と言うそうです。岩崎さんは、「これまで自分がプペトークを使っていたことをマイナスに考えなくても結構です。」と。

そして「プペトークを使っていたことに気づけた人は、これから逆のことをすればよいのです。」と勇気づけてくださいました。講演を聴きにきた方は、岩崎さんから、終始、ペップトークの精神で勇気が出る励ましのメッセージをたくさんいただき、大満足できた講演会となりました。

【参加者の感想から】

○言葉の大切さを改めて認識できました。何か勇気が湧いてきました。感動！人生のターニングポイントとなるお話を聞いて大満足です。

○もっと早く、ペップトークを知りたかったです。さっそく、ペップトークを心がけてつかってみたいと思います。

○講演をお聞きし、何度も涙が出そうになりました。「リーダーは言葉を磨く」という言葉を心に、ポジティブな言葉が日頃から出るように心掛けていきたいです。

分科会

- | | | |
|----------------------|----------------|--------------------|
| ①社会福祉法人による障がい者支援の取組 | 社会福祉法人いなりやま福祉会 | 酒井 勇幸さん
安藤 正幸さん |
| ②学社連携による人権同和教育の取組 | 野沢温泉村立野沢温泉中学校 | 唐木田 美有詩さん |
| ③共助活動に取り組む少年院出院者の取組 | NPO法人セカンドチャンス! | 才門 辰史さん |
| ④企業における取組 | 長野労働局 雇用環境・均等室 | 川崎 健さん |
| ⑤ワークショップ『語り合い気づこう人権』 | 東信教育事務所生涯学習課 | 塩田 直人さん |
- 参加者の感想など、詳細は次号で紹介いたします。

地域とつながるPTA指導者研修会

北信地区PTA指導者研修会(義務)実施報告

～千曲会場:6月17日(土)での研修会の様子～

6月17日(土)、千曲市総合観光会館に於いて、平成29年度北信地区PTA指導者研修会(義務)が開催されました。研修Ⅰは、実践発表「ゆかいな仲間たち!学校・子ども・地域」と題して、長野市立真島小学校PTA会長の高橋伸武さんより、真島小学校PTAが学校や地域と一体となって取り組んでいる「親子ふれあい体験学習」、「ましまっ子応援隊(信州型CS)」の様子を報告していただきました。



【感想から】

- ・親子ふれあい体験学習が、子どもたちにとって素敵な活動になっていることが伝わってきた。核家族の進んでいる時代、勉強だけでなく体験が子どもたちの成長に大切だと思う。
- ・学校、家庭、地域のつながりが素晴らしいと感じた。
- ・三者がまとまり、同じ目標を持つことができるのは、長い間活動を続けてきているからだと思う。
- ・地域の方々も一緒に活動している点がすばらしく、まさに地域一体となる見本のような取組だと思う。

分散会の様子

研修Ⅱは、3つの分散会(信州型CS・家庭学習・性被害防止)に分かれて、研修を深めました。また、グループトークでは、自校のPTA活動の様子や悩みなどを出し合い、活発な意見交換が行われました。

【感想から】

第1分散会「信州型コミュニティスクール」

- ・他校の活動内容を知ることができ、とてもよい学びの場となった。
- ・各校の活動を参考によりよいPTA活動にしたい。まだまだ子どもたちのためにやれることはたくさんあると思った。
- ・保護者の参加と先生方との連携が、どの学校でも共通した課題だった。形式的になっている現状を活性化する手立てが必要。
- ・各校によって信州型CSの導入の様子がまったく違うことに驚いた。学校からの要望をPTAが聞き、協力したい。さらに地域の方にも協力していただき、うまく循環できるとよい。



第2分散会「家庭学習」

- ・家庭でのコミュニケーションが、学力や育ちにより影響をもたらすという分析結果が興味深かった。
- ・家庭学習の前に、親子のコミュニケーションが大切だと感じた。
- ・今子どもたちに求められている「自分で考え自分で表す力」が養えれば、自分の力で生きていくことができる。家庭での声かけをいろいろ振り返るきっかけとなった。
- ・家庭で取り組んでいる工夫を具体的に聞くことができた。小学校よりも格段に量が増える中学校での宿題に、今からどう取り組んでいくか考えていきたい。

第3分散会「性被害防止」

- ・涙がとまらないぐらい感動と衝撃を受けた。性被害は私たちが目をつぶってはいけないことであり、いろいろな事が起きている世の中を、子どもたちと一緒に知るべきだと思う。子どもに対する接し方、あり方を改めて考えることができた。
- ・性被害を起こりうる現実として受け止め、親として考えるべき良い時間が過ごせた。生きていくことの見直しになった。これから難くなる年齢の子と向き合う時の心づもりができた。
- ・根本的な大切なことを学んだ。性被害は子どもの生活と隣り合わせだということに驚いた。

ひろがる信州型コミュニティスクール

信州型コミュニティスクール推進セミナー実施報告 ～学社連携意見交換会～

長野会場：6月8日（木）、千曲会場：6月27日（火）、中野会場：7月11日（火）での研修会

6月8日長野市役所第二庁舎、6月27日千曲市総合教育センター、7月11日北信合同庁舎で上記の研修会が行われました。学校職員、地域コーディネーター、PTA役員、学校運営委員、教育委員会、社会教育委員など、教育関係の多くの皆さんに参加いただきました。

【長野会場】

【千曲会場】

【中野会場】



ポスターセッション



情報・意見交換会



実践発表

ポスターセッション

「8校の長野市実践校から学ぶ」

発表校

【芋井小学校】【川中島小学校】

【裾花小学校】【篠ノ井西小学校】

【東条小学校】【東北中学校】

【大岡中学校】【七二会中学校】

実践発表

「キャリア教育と地域の支援」

坂城小教頭 松澤幸嗣さん

「戸隠コミュニティスクール」

信州型CSアドバイザー 岡本伴子さん

総合コーディネーター 竹之内充さん

戸隠中教諭 宮下文一さん

実践発表

「コミュニティスクールへの歩み」

城北中教頭 小山正博さん

「戸隠コミュニティスクール」

信州型CSアドバイザー 岡本伴子さん

総合コーディネーター 竹之内充さん

戸隠小教諭 横田真由美さん

【参加者の声】

- ・今まであった活動をつないでいくことで、より内容の濃い活動になる。また、連携することで互いのアイデアをもらうことができることを学んだ。
- ・立ち上げには苦勞の多いこともあるが、一度軌道に乗れば子どもにとって大きな力になると感じた。
- ・信州型CSを広げていくために、まずは学校に足を運んでいただくことから始めたい。「敷居が高い」という感覚（特に中学）を改善していくことが必要である。
- ・地域への浸透はまだまだ。正しい手続きで発信して理解を共有化することが大切である。
- ・学校、地域によってニーズや悩みは様々あり、他校の実践は参考にしつつも、やはり各校で「どんな子どもを育てたいのか」「そのために何ができるか」をよく話し合い、かかわる人みんなが認識を同じにすることが大事であると感じた。

信州型CSの更なる推進に向けて～推進セミナーを通して、見えてきたこと～

○学校と地域の皆さんで、子どもの姿や様子について語り合い、「こんな子どもを育てたい」という願いを共有しましょう。

運営委員会だけでなく、「ボランティアとの打ち合わせ会」、「〇〇小の子どもを語る会」「拡大運営委員会（担任の先生方も参加）」等を開催し、小グループでざっくばらんに学校のこと、子どもたちのこと、地域のことを語り合しましょう。学校や地域が目指しているところ、現状や課題を出し合い、共通理解を図ることで、支援の方向がより具体的で充実したものになります。

総務課からのお知らせ

教員免許更新制における「平成30年問題」について

教員免許更新制において、現職の公立学校教員が教員免許状を失効させた場合、その教員は失職します。

教員免許更新は、教員個人の責任で行うものですが、現実には免許状の失効が生じると、教育委員会として様々な対応が必要になるだけでなく、学校現場が混乱して、児童・生徒にも悪影響が生じる恐れがあります。

教員免許状の失効
教員本人は失職



教育委員会（学校）の対応

- ・失効中の授業を無効とするか判断
- ・保護者への説明
- ・報道発表（謝罪と再発防止説明）
- ・後任の教員の配置

指導していた教員が突然交代、授業無効だと補習実施



うっかり教員免許状を失効させる教員は、現在でも毎年出ていますが、今後、「新免許状所持者」の更新が本格的に始まると失効者が多数生じる可能性があります。（この問題を便宜上、「平成30年問題」と呼称します。）

※ 教員免許更新制は、更新講習の定員不足で受講できない者が生じないように、下図のように対象者を整理しています。平成30年問題は制度上、やむを得ず生じる問題なのです。

免許状所持者は「旧免許状所持者」と「新免許状所持者」のいずれかに分類されます。

● 旧免許状所持者

平成21年3月31日以前に最初の免許状を取得した者。生年月日により10のグループに分かれて1回目の更新講習を受講する。

「旧免許状所持者」は、生年月日で更新時期が推測できるため、まわりが気付いて注意を与えることができる。

● 新免許状所持者

平成21年4月1日以後に最初の免許状を取得した者。有効期間は、所要資格の取得から10年後で、有効期限は免許状に記載される。

平成21年度に所要資格を得た者の場合、平成30年2月から更新講習受講可能となる。

→ 平成30年2月から、新免許状所持者の更新が本格的に始まる。

「新免許状所持者」の更新時期は、本人以外わからない。免許状を紛失すると、本人でもわからなくなる。

更新時期をうっかり失念し、免許状を失効させる者が大幅に増加する恐れあり！

免許状を失効させないように、自分の更新時期をしっかり把握し、更新を行いましょう！